

科目名	非営利組織論			ナンバリング	SOC461	授業形態	講義
対象学年	3	開講時期	後期	科目分類	選択	単位数	2 単位
代表教員	照井義勝	担当教員					

授業の概要	この授業では地域づくり／まちづくりの上で欠かすことのできない主体へとなった非営利活動／非営利組織について学習する。ボランティア活動や市民活動のこれまでの歴史や社会との関係を踏まえた上で、非営利組織の活動内容、実際の運営、行政とのパートナーシップについて理解する。そのことを通じて、非営利組織の重要性を理解する。最終的に、自らの地域の市民活動／非営利活動へ参加し、まちづくりに関与できることを目標とする。						
到達目標	1. 非営利組織や市民活動に関する基本的知識、歴史的背景について理解することができる。 2. 非営利組織において実際にメンバーとして活動することができる。 3. 非営利組織の活動をマネジメントすることができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	授業で出てくるキーワードについて、新聞や辞書などを通じて知識を得ておくこと。加えて、授業後には、参考文献で示している文献などを通じてさらなる理解を深めること。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
		1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
		3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. さまざまな非営利組織について関心をもち、それについて理解することができる。 2. 非営利組織の基本的な理論について理解することができる。	1. 社会が抱える課題を見だし、それをさまざまなステークホルダーとともに解決するための企画書を立てることができる。 2. 非営利組織の基本的な理論について理解することができ、実際の活動において応用することができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
最終レポート	○	○			○		50%
グループワーク	○	○	○	○	○		30%
リアクションペーパー	○			○			10%
授業態度・授業への参加				○			10%

課題、評価のフィードバック	1. 授業ごとにリアクションペーパーを書いてもらう。疑問点や感想を書いてもらい、次週の授業でコメントする。 2. 最終課題については、授業で学んだことをほぼ実践形式の課題ならびにグループワークでその都度コメントをおこなう。
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	イントロダクション	講義の進め方、受講に際しての注意点について理解できる。	
	第2回	非営利組織とは何か	非営利組織としての組織としての特徴を、他の組織(会社組織、行政組織)との比較のなかで理解することができる。	
	第3回	日本における市民活動の歴史(1)	戦後日本における住民運動・市民活動の歴史を通じて、非営利活動組織の社会的特徴を理解することができる。	
	第4回	日本における市民活動の歴史(2)	戦後日本における住民運動・市民活動の歴史を通じて、非営利活動組織の社会的特徴を理解することができる。	
	第5回	非営利組織と社会との関係	全体社会の中における非営利組織の位置づけを政府セクター、企業セクターとの関係から理解することで、非営利組織の社会的意義を理解することができる。	
	第6回	非営利組織の実際	実際の非営利組織の活動の内容について、いわき市を事例として理解することができる。	
	第7回	ボランティア活動とNPO活動との違い	ボランティア活動とNPO活動の違いをボランティアの理念の観点から理解することができる。近年のボランティア活動をめぐる論点を考える。	
	第8回	NPOの具体的活動とインターメディアリー(中間支援組織)	NPO活動の種類と、それぞれの特徴的活動内容を理解することができる。インターメディアリーの必要性和現状を理解することができる。	
	第9回	NPOの活動資源管理(1)	NPO活動をするために、仲間(ボランティアとスタッフ)の集め方、個の活動から組織づくりまでの特徴について理解することができる。	
	第10回	NPOの活動資源管理(2)	NPO活動において、望ましい財政基盤とはどういうものかを理解することができる。また、財政基盤の視点からNPOという組織の特徴を理解することができる。	
	第11回	NPOの活動資源管理(3)	NPO活動において、「ビジョン」、「ミッション」の必要性を理解することができる。また、NPOと企業の「マネジメント」の特徴を理解することができる。	
	第12回	ソーシャルビジネス(社会的企業)という動き	採算性も考慮しながら組織的に社会的事業を展開することで、貢献範囲を広げることが可能となるソーシャルビジネスの現状と可能性について理解することができる。	
	第13回	CSR(企業の社会的責任)とは	企業と社会に関する基礎理論と、CSRにかかわる現在の国際的な議論と日本企業の現状を理解し、社会的に責任ある企業経営に関する知識と意識を理解できる。	
	第14回	グループワーク(1)	これまで学んだことを、グループワークを通じて活かすことができる。	
	第15回	グループワーク(2)	これまで学んだことを、グループワークを通じて活かすことができる。	
	試験	試験は実施しない。		
授業の進め方		基本的に講義と質疑応答に基づき授業をおこなう。授業終了後にはリアクションペーパーを執筆してもらい、翌週の授業でそれに対してコメントする。授業の最後に、これまで学んだことをもとにグループワークをおこなう。		
授業外学習の指示		分からない用語、内容を確認しておくこと。配付資料を中心に授業の復習をおこない、場合によっては参考資料などを読むこと。 (授業外学習時間: 毎週 90 分)		

教科書	教科書は使用しない。
参考書	
参考URLなど	
その他	内閣府NPOホームページ https://www.npo-homepage.go.jp/ 日本NPOセンター http://www.jnpoc.ne.jp/ NPO法人シーズ http://www.npoweb.jp/